



主催：学術変革領域「顔身体デザイン」
計画班「JOINする身体／アートの間身体性現象学」

能楽の現象学・

パフォーマンスの認知哲学

1日目

2026年3月28日（土）

午前の部

「即興の現象学」講演会

Lectures on Phenomenology of Improvisation

午後の部

能楽「土蜘蛛」の実演と即興芸術
についての総合討論

使用言語：日本語

（立教大学池袋キャンパス本館1202）

（立教池袋中学・高等学校センテニアルホール）

- 10:00-10:10 Explanation of Purpose: Tetsuya Kono
- 10:10-11:00 Susanne Ravn
“Spontaneity and sense of agency in dance improvisation”
- 11:00-11:50 Dylan van der Schyff
“Musical Improvisation and the Continuity of Mind and Life”
- 11:50-12:30 General Discussion

使用言語：英語

- 14:00-14:10 趣旨説明：河野哲也
- 14:10-14:30 三浦裕子：能楽及び「土蜘蛛」の解説
- 14:35-14:50 実演「土蜘蛛」
シテ（土蜘蛛の精）：佐久間二郎 笛：小野寺竜一
地謡（及び働き）：奥川恒成、石井寛人 小鼓：鳥山直也
ワキ（一人武者）：野口能弘 大鼓：佃良太郎
太鼓：澤田晃良
- 15:10-16:30 指定質疑と総合討論

Susanne Ravn, Dylan van der Schyff,
三浦裕子, 南雲まき

2日目

2026年3月29日（日）

午前の部

（立教大学池袋キャンパス本館1202）

「アートと構成主義的人間観」

使用言語：日本語

- 10:00-10:10 趣旨説明：河野哲也
- 10:10-10:35 ヒュース由美
「即興演劇における「間」：環境・身体
の相互作用から生じる創発的行為」
- 10:35-11:00 中川志信
「文楽と能楽の身体知に基づくロボット
の生命感と感情の動的・静的制御」
- 11:00-11:35 浅田稔
「痛みから間身体性へ：構成主義的口
ボット観が拓く人間像の再設計」
- 11:35-12:00 佐古仁志
「ロボットと共に住まうこと：パース的
観点からの共生の倫理学にむけて」
- 12:00-12:30 総合討論

午後の部

（立教大学池袋キャンパス本館1202教室）

「アートにおける間身体性の現象学」

使用言語：英語

The Phenomenology of Intercorporeality in Art

- 14:00-14:10 Explanation of Purpose: Tetsuya Kono
- 14:10-14:35 Okui, Haruka
“Body schema and object intentionality
in the art of marionette”
- 14:35-15:00 Nagataki, Shoji
“From metrics to meaning: Integrating
data-driven and ecological
approaches in football analysis”
- 15:00-15:25 Kono, Tetsuya
“The Phenomenology of Pain and
Sublimation Through Art”
- 15:35-16:15 Susanne Ravn
“Towards a phenomenology of
movement praxis in dance and
beyond”
- 16:15-16:55 Dylan van der Schyff
“Frameworks for Creative Practice
Research”
- 16:55-17:30 General Discussion

参加登録フォーム



<https://face-body-design.tamacc.chuo-u.ac.jp>

スサンヌ・ラウン (Susanne Ravn)：南デンマーク大学健康科学部スポーツ科学・臨床バイオメカニクス学科教授。ダンス・スポーツ・健康科学の分野において、現象学と質的研究手法を組み合わせるという学際的な課題に取り組む。

ディラン・ファン＝デル＝スケフ (Dylan van der Schyff)：メルボルン音楽院の音楽准教授。専門は身体化された認知科学、現象学、音楽学を基盤とし、音楽が意味を持つ方法と理由に関する問いを探索。

浅田 稔：大阪国際専門職大学副学長、大阪大学先導的学際研究機構特任教授。専門は認知発達ロボティクスの研究。文部科学大臣賞、立石賞等受賞

奥井 遼：同志社大学大学院社会学研究科教育文化学専攻 准教授 (博士・教育学)。主な著書に『くわど』を生きる身体一人形遣いと稽古の臨床教育学』ミネルヴァ書房2015年など。

河野 哲也：立教大学文学部教育学科・教授。第26-27期日本学術会議会員(哲学委員会委員長)、日本哲学系諸学会 (JFPS) 連合事務局長。主な著書に『間合い：生態学的現象学の探究』など。剣道七段。

佐古 仁志：東京交通短期大学運輸科 准教授 (博士・人間科学) 記号論・プラグマティズム・生態心理学。主な著書に「進化における成長の原理としてのアガパー——パースにおける愛と境界の変革」(『21世紀の自然哲学へ』人文書院、2024年) など。

中川 志信：名古屋市立大学大学院芸術工学研究科・教授 (学術博士)。主に伝統文化 (文楽・能楽) をロボットのUXへ適用する学際的研究で、全て代表者として16年連続科研費などに採択。文楽人形ロボットは国内外で高く評価 (DIA国際デザインコンペ2022 銀賞など)

長滝 祥司：中京大学国際学部・教授。専門：心と身体の哲学、現象学、認知科学の哲学。著書：Nagataki, S. et al. (eds.). Emotion, Communication, Interaction: Modular Studies in Cognitive Philosophy. Vernon (in Press)、『心の哲学史』講談社、2024年 (分担執筆) など。

南雲 まき：武蔵野大学教育学部教育学科 准教授 博士 (造形)、美術教育学。「美術と美術教育の分断を越えるために——ポーランドの美術教育を手がかりに」『アートベース・リサーチの可能性 — 制作・研究・教育をつなぐ』(勁草書房、2023)。「SOMPO 美術館賞」(女流画家協会2025) など

ヒューズ 由美：東京大学大学院学際情報学府博士課程後期。1996年国際ストックホルム映画祭主演女優賞、1996年ニュージーランドベスト外国人賞、第36回日本認知科学会大会発表賞受賞。著書『インプロ・ゲームー身体表現のワークショップ』(晩成書房) など。

三浦 裕子：武蔵野大学文学部日本文学文化学科 特任教授／能楽資料センター長。専門は音楽学。公開講座や狂言鑑賞会など能・狂言の普及啓蒙活動にも多数従事。

佐久間二郎：観世流能楽師。重要無形文化財総合認定保持者、山梨県立大学非常勤講師、一般社団法人「日本能楽会」会員、公益社団法人「能楽協会」会員、公益社団法人「観世九阜会」(かんぜきゅうこうかい) 所属、佐久間二郎能の会「三曜会」主宰、謡曲・仕舞「観世流 富士の会」主宰。

奥川恒成：3世観世喜之師、観世喜正師。2020年、観世喜之家へ入門、2024年、野村万蔵氏主催公演『披きの会』にて千歳を抜く。

石井寛人：2025年(令和7年)1月、九阜会初会にて千歳を抜く。2026年(令和8年)7月 九阜会若竹能「敦盛」にて初シテ予定。

野口能弘：下掛宝生流 能楽師、重要無形文化財保持者、東京藝術大学音楽学部卒、日本能楽協会会員。多数の海外公演に参加。ワークショップや全国の小中学校での能楽公演など、能楽の普及に務める。シテ・ワキ・狂言・囃子の四役による能楽ユニット、「能楽ダンディズム」のメンバー。

小野寺竜一：笛方、一噌流。一噌庸二及び一噌隆之に師事。

島山直也：小鼓方観世流。これまでに「石橋」「乱」「望月」「安宅」「道成寺」を抜く。映画「必死剣鳥刺し」、NHK大河ドラマ等出演。能楽協会会員、日本能楽会会員、藤菜会主催、狛江能楽普及会会員、豊田文化奨励賞受賞、教育文化奨励賞受賞、WE LOVEとよたスペシャルサポーター、重要無形文化財保持者(総合認定)、能楽cafeマスター、一般社団法人コニエレニメンバー

佃良太郎：高安流大鼓方として1997年に「三輪サシクセ」で初舞台。今までに大曲 狸々乱 石橋 道成寺 翁を抜く。(公社) 能楽協会東京支部会員、重要無形文化財総合認定保持者。

澤田晃良：太鼓方観世流能楽師。故観世元伯 及び 小寺佐七 に師事。2015年 五雲会 能「船弁慶」にて初舞台。

能楽の現象学・

パフォーマンスの 認知哲学



2026年3月28日(土)、29日(日)
立教大学池袋キャンパス